

NEWS RELEASE

各位

2025年4月11日(金)
株式会社IMAGICA EEX
代表取締役 CEO兼CCO 諸石 治之
問い合わせ先 CSO 早川 正祐
press@eex.co.jp

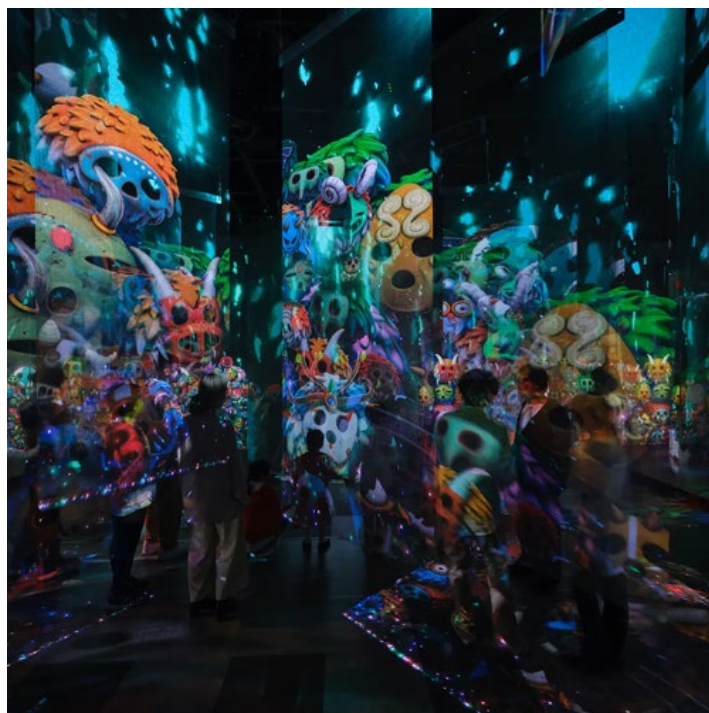
IMAGICA EEX、大阪・関西万博シグネチャーパビリオン 河森正治プロデュース 「いのちめぐる冒険」において、超時空シアター「499秒 わたしの合体」と「ANIMA!」の 制作統括を担当し、イマーシブ映像体験を提供！

株式会社IMAGICA EEX（イマジカ イークス、本社：東京都港区 代表取締役社長 CEO兼CCO 諸石 治之、以下「IMAGICA EEX」）は、2025年4月13日（日）～10月13日（月）に開催される、大阪・関西万博において、アニメーション監督/メカニックデザイナー/ビジョンクリエイターの河森正治氏がプロデュースするシグネチャーパビリオン「いのちめぐる冒険」におけるコンテンツ「超時空シアター」と「ANIMA!」の制作統括を担当し、イマーシブ映像体験を提供しました。

■ 超時空シアター「499秒 わたしの合体」



■ 「ANIMA!」



超時空シアター「499秒 わたしの合体」とは

最新のMR/VRで体験する、いのちをめぐる冒険物語

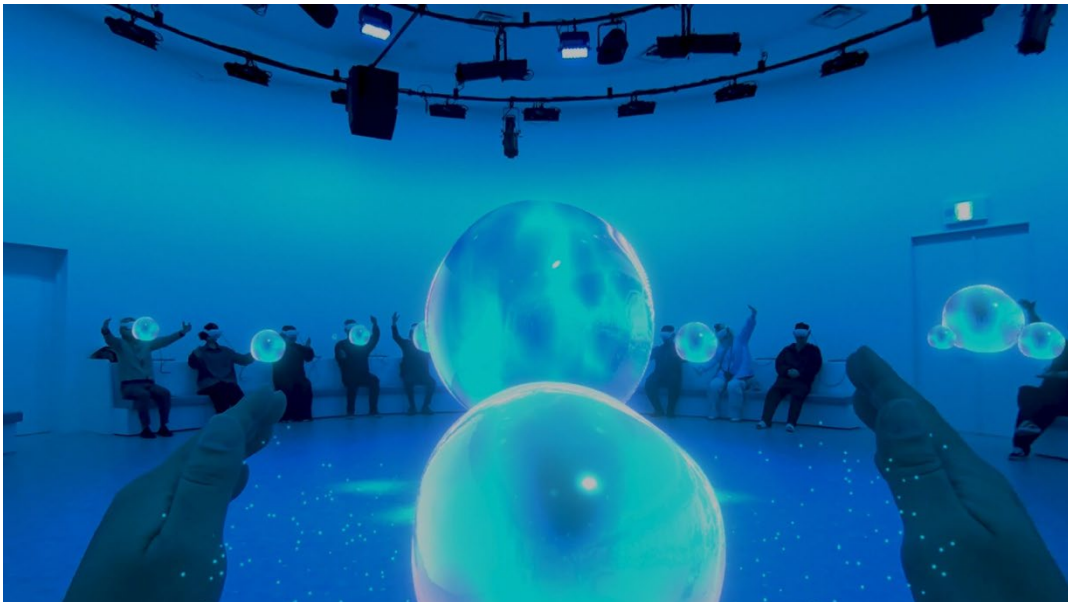
現実と仮想空間が融合する専用シアターにて、30名の参加者がカメラ付きVRゴーグルを装着し、VRとMRの技術を通して現実と非現実を行き来します。過去の記憶から時空を越え、宇宙スケール食物連鎖を全員で同時体験する、世界でここできしか体験できないイマーシブ展示。数々のSF作品を生み出してきた河森正治が描く「宇宙スケール食物連鎖」を通じて、パビリオンのテーマである「いのちは合体・変形だ！」というコンセプトを体感できます。

IMAGICA EEXは、この超時空シアター「499秒 わたしの合体」の制作統括を担当いたしました。ドバイ万博の日本館も手がけた株式会社バスキュールによる展示企画を元に、西郡勲氏のディレクションによるイマーシブ映像とアニメーション制作、ソニーピーシーエル株式会社（以下、ソニーPCL）の音の体験デザインとSoVeC株式会社と寺坂波操株式会社によって開発された立体音響技術を融合させ、これまでにない全く新しい映像体験を提供しました。

■超時空シアター「499秒 わたしの合体」の動画リンク

https://www.youtube.com/watch?v=_zlbRZ1PS0M

■超時空シアター「499秒 わたしの合体」



「ANIMA!」とは

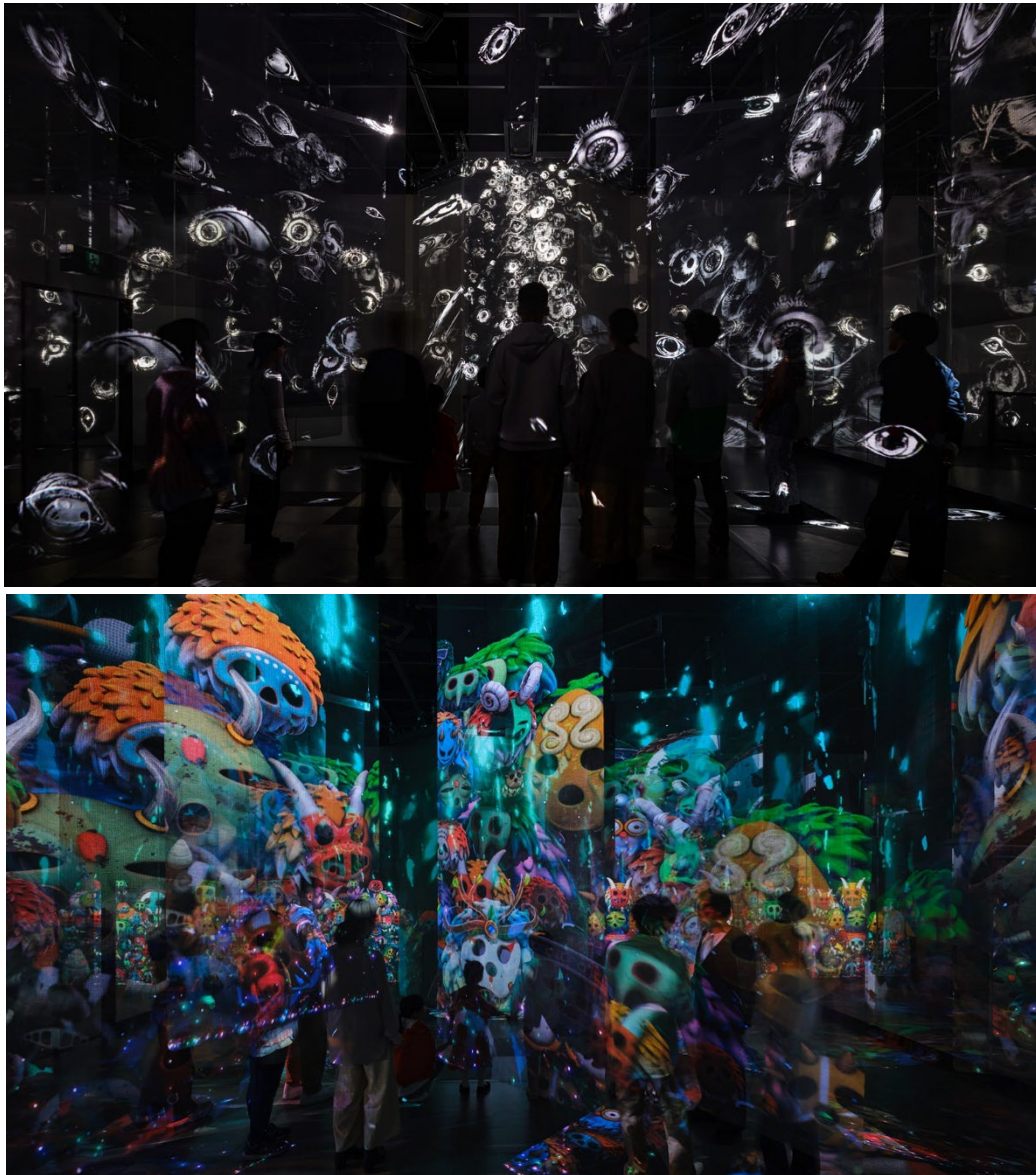
映像と音楽と振動がシンクロ、全身で感じる“いのちのミュージカル”。

紗幕に映し出されるイマーシブ映像と、菅野よう子氏が創り出す音の世界、そしてインタラクティブな振動と立体音響によって、参加者が全身で体験する没入型空間です。複数の紗幕によって光や影が重なり、奥行きと立体感を演出。また、会場内の鏡によって視覚的な錯覚を生み出し、空間の広がりを強調します。観客自身が“命のミュージカル”を奏でる体験は、回を重ねるごとに異なる表情を見せ、新しい感動をもたらします。

IMAGICA EEXはこの「ANIMA!」の制作統括を担当いたしました。ドバイ万博の日本館も手がけた株式会社バスキュールによる展示企画を元に、プランニングを西郡勲氏、アニメーション制作は稲葉秀樹氏（P.I.C.S.management所属）によるイマーシブ映像と、SoVeCが提供する立体音響による「音のXR体験」※1と、ソニーPCLが提供するソニーの床型ハプティクス「Active Slate」※2を活用したイマーシブ演出ソリューションにより、全方位から包みこまれる新しい体験を生み出しました。

■ ANIMA!の動画リンク <https://youtu.be/XkpPt3FRlWA>

■「ANIMA!」



※1 ソニーの立体音響技術と寺坂波操株式会社が開発したサウンドエンジンを組み合わせたSoVeCの「音のXR体験」。

※2 「Active Slate」人の歩行にあわせて多彩な振動フィードバックを実現。Haptic Floorにインタラクティブ性をもたせ、床が水たまりや砂浜に変わったかのように感じさせる技術。

<https://www.sony.com/ja/SonyInfo/research/projects/haptics/>

河森正治 公式サイト 大阪・関西万博 特設ページ

<https://shojikawamori.jp/expo2025/>



【河森正治（かわもり しょうじ）氏プロフィール】

アニメーション監督/メカニックデザイナー/ビジョンクリエイター

2025年大阪・関西万博 テーマ事業プロデューサー

代表作:『マクロス』シリーズ（原作、監督、メカデザイン）、『アクエリオン』シリーズ（原作、監督、メカデザイン）、『天空のエスカフローネ』（原作、スーパーバイザー、シリーズ構成）、『イーハトーヴ幻想 KENJIの春』（原作、監督）、『地球少女アルジュナ』（原作、監督）

デザイン関係:『機動戦士ガンダム0083スターダストメモリー』『攻殻機動隊』『新世紀GPXサイバーフォーミュラ』『アーモードコア』『交響詩篇エウレカセブン』『デモンエクスマキナ』、ソニー“AIBO”『ERS-220』、日産デュアリス『パワード・スーツ デュアリス』、ソニー・スマートウォッチ wenaオリジナルモデル盤面デザインなど。

【菅野よう子（かのん ようこ）氏プロフィール】

作編曲家 / 演奏家 / 音楽プロデューサー。映画、ドラマ、CM、アニメ、ゲーム音楽をはじめ、さまざまなアーティストへの楽曲提供やプロデュースワークを手がけ、国内外において幅広く活動する。アニメ・映画音楽の分野では、第13回日本ゴールドディスク大賞を受賞した「COWBOY BEBOP」をはじめ「創聖のアクエリオン（2008年度JASRAC賞銀賞）」「マクロス F」 「攻殻機動隊 S.A.C.」などで高い評価を受け、東京アニメアワード音楽賞を5回受賞している。CM音楽の分野ではCM音楽賞の最高峰とも言える三木鶏郎広告音楽賞をはじめ受賞歴多数。

NHK東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を作曲、2012年の「第63回紅白歌合戦」に出演し審査員も務めた。2013年に連続テレビ小説「ごちそうさん」、2017年には大河ドラマ「おんな城主 直虎」の音楽を手がけ、2019年「天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典」の祝賀式典にて奉祝曲「Ray of Water」の作編曲・指揮を務めた。直近作はNetflixシリーズ「COWBOY BEBOP」(2021年 / Netflix)、「舞妓さんちのまかないさん」（2023年 / 是枝裕和監督）、「クラクラ」（2024年 / 歌：Ado）の編曲など。